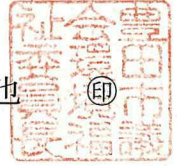


平成28年 7月20日

豊田市議会議長 近藤 光良 様

環境福祉委員会
委員長 木本 文也



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日 程 平成28年7月12日(火)～14日(木)
- 2 派遣先及び内容
12日(火)・・・埼玉県さいたま市／
さいたま市桜環境センターについて

13日(水)・・・はらから福祉会(宮城県柴田町)／
障がい者の就労の取組について

14日(木)・・・静岡県袋井市／
健康マイレージの取組について
- 3 派遣委員
委員長 木本 文也
副委員長 田代 研
委員 日恵野雅俊 作元志津夫 太田 博康
加藤 和男 杉本 寛文 原田 隆司
日當 浩介
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行／成瀬 剛史、東郷 公彦

視察報告書様式【1】

委員会名	環境福祉委員会	委員名	木本文也
視察日時	平成28年7月12日（火）午後1時30分～午後2時30分		
視察先・概要	埼玉県さいたま市 人口：約126万4千人 面積：217.43km ²		
視察内容	さいたま市桜環境センターについて		
選定理由	桜環境センターはごみ処理施設の老朽化に伴い施設整備を進め平成27年4月1日から新たに運用中の施設。ごみや資源物を処理する施設に加え、熱回収施設（ごみ焼却施設）、リサイクルセンターのほか、環境啓発施設や、ごみを焼却する際の熱エネルギーを回収して利用する余熱体験施設などを整備している。本施設ではごみを処理するだけでなく、循環型社会を楽しみながら体感することができ、啓発効果は高いものと思われる。		
豊田市の現状と課題	本市においてはe c o - Tがクリーンセンターに併設する環境学習施設として市民に親しまれている。ソフト面・ハード面において、市民に向けたより訴求力の高い取組が求められている。		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> ●さいたま市環境局 施設部長 堀内氏よりあいさつ、説明 ●さいたま市桜環境センター エコパークさいたま 日高課長説明 1 事業概要 ①事業方式 DBO方式 ②事業内容 旧埋立処分場適正閉鎖、但し尿処理施設解体撤去 熱改修施設、リサイクルセンター、管理棟建設 ③設計・施行管理 パシフィックコンサルタンツ株式会社 2 特長 ①環境保全対策と周辺環境との調和 ②ごみの適正処理と施設の安定稼働 ③循環型社会の構築 3 施設概要 ①熱回収施設…380t／日 ②リサイクルセンター…91t／日 		
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竣工までに12年を要し、老朽化した施設の建て替えをした。ある面、迷惑施設であるため、地域住民との意見交換、要望などに対応した。その一つが、余熱を利用した温浴施設である。大浴場、ウォーキングプール、トレーニングなどは安価な料金設定で、一日あたり1,000人もの利用がある。また、カラオケ、レストランなども完備、アクセスは無料送迎バスが設置されていることは大いに評価できる。 		
本市に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 余熱利用の温浴施設は、本市にも設置されているが、更には公式プール建設も検討したいと感じた。 ・ 幅広い年代層が利用できる場所づくりをしている点。 		
その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記にもあるが、利用料金が60歳以上は100円と設定されており、高齢者の利用促進がされている。しかし、民業への圧迫という点も注視しなければならない。すでに関係組合から料金の見直しの要望も出ているようである。また、運営はDBO方式を取り入れており、評価は今後の課題でもある。 ・ 民間の活力を利用するDBO方式やPFI方式については、施設ごとにどういった方式が適するかよく勘案したうえで取り入れていくべきである。 		

視察報告書【2】

委員会名	環境福祉委員会	委員名	木本文也
視察日時	平成28年7月13日（水）午後1時00分～午後3時00分		
視察先・概要	社会福祉法人 はらから福祉会（宮城県柴田郡柴田町）		
視察内容	障がい者の就労支援の取組みについて		
選定理由	はらから福祉会は県内で障がい者が働く場所を8カ所、共同生活の場を8カ所運営している。大豆加工を始めとした食品加工を通じて障がい者の自立と社会参加を目指している。質の高いサービスの提供によって工賃の水準が高いことが特長。なお、今年度より介護や農業に携わる障がい者の専門学校を開設し、障がい者の働き手の育成を行っている。		
豊田市の現状と課題	豊田市においてもけやきワークスなど授産施設において障がい者の就労支援は着実に行われている。ただし、現状の工賃の水準については改善の余地がある。 また、農福連携は今後の重要取組テーマである。		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> ●くりえいと柴田 遠藤所長現地説明 ●はらから福祉会 武田理事長説明 1 くりえいと柴田 <ul style="list-style-type: none"> ①事業…レトルト食品・パン製造 ②定員…就労移行（12名）、就労継続B（28名） ③時給…605円、④売上…月額600万円 2 はらから福祉会としての就労支援 <ul style="list-style-type: none"> ①概要…本部を宮城県柴田町に置き、障がい者の就労の場8箇所、共同生活の場8箇所を運営。 ②理念…障がい者が重くても働くことは、基本的な営みであり、必要不可欠な権利の考えの基に、食品加工中心に障がい者の自立と社会参加を目指している。 ③目標…月額工賃7万円 ④事業内容…食品加工中心→毎日一定の仕事を確認 Ⅰ儲かること Ⅱ難しい仕事であること Ⅲ日常的に需要があること 		
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和59年から同事業を開始した。武田理事長が教員時代に教え子の就労に対し、何とかしなければならないという思いから事業を開始した。月額工賃7万円を目指し、年金と合わせて月15万円で生活ができる状況を作りだいたいという強い思いを痛感した。愛知県でも障がい者の月額賃金は1万5千円にも届いていない状況から同福祉法人の取り組みは評価できる。 		
本市に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の方の作業環境の整備においては、その工程での技術力の向上も不可欠である。本市はものづくりの街であり、このような分野での技術革新を支えることは、雇用機会が増え、賃金も増えることにつながる。 ・難度の高い仕事を受け、障がい者でも対応できるよう仕事を細分化、機械化などを行っている点は素晴らしいと感じる。 ・製造した製品が学校給食として使われるなど、積極的に地元で消費がなされている点。 		
その他（意見・課題など）	<ul style="list-style-type: none"> ・武田理事長が戦前生まれでもあり、ご本人が日々の食糧を確保するにも苦労した経験をふまえ、障がい者福祉に取り組んでいる姿勢に感銘を受けた。 ・強いリーダーシップの基に事業運営がなされていた。 ・能力ある施設利用者を就労につなげていく点は将来的な課題となるように感じる。 		

視察報告書【3】

委員会名	環境福祉委員会	委員名	木本文也
視察日時	平成28年7月14日（木）午前10時00分～午後11時30分		
視察先・概要	静岡県袋井市 人口：約8万5千人 面積：108.33km ²		
視察内容	健康マイレージの取組について		
選定理由	本取組は健康文化都市にむけた具体的な施策であり、市民総参加型の健康づくり運動である。健康づくりの実践行動をポイント化して、たまったポイントを公共施設の利用券や教育環境充実のために寄附して社会貢献も可能である。市民の関心を喚起する工夫がなされており、市民の健康づくりにむけた有意な取組である。		
豊田市の現状と課題	本市において推し進める、まちぐるみで取り組む心とからだの健康づくりの実践に向けて、市民を誘導する効果的な手法が望まれている。		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> ●議会事務局 村松局長あいさつ・紹介 ●健康づくり課 富山課長あいさつ ●同 小山知子主任主査説明 ●袋井市…今年度より第2次総合計画がスタート、将来像を「日本一健康文化都市」としており、健康づくり計画も合わせてスタートの年となっている。 ●健康マイレージ制度 <ul style="list-style-type: none"> 1 経緯…平成5年に日本一健康文化都市宣言 <li style="padding-left: 40px;">平成18年に健康チャレンジすまいる運動スタート <li style="padding-left: 40px;">平成19年に健康マイレージ制度導入 2 目的…金銭的インセンティブの付与により、正しい生活習慣への動機付け支援と定着化を目指す。 3 概要…健康づくりをポイント化し、それを公共施設利用券や民間の登録サービス券の交換、教育施設、市への基金等へ寄付をすることにより社会貢献ができる制度。 4 種類…大人（すまいるカード・e-すまいる）、子ども（すまいる手帳） 		
評価とその理由	総合計画に健康というキーワードを盛り込み、全市あげての取り組みは評価できる。また、現行の仕組みに10年以上かけ、歴史のある取組みである。また、拠点施設を市民病院内に設置し、市民の方が気軽に訪れやすい環境づくりも高く評価できる。		
本市に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・園児、生徒を巻き込んだ「すまいる手帳」の活用は、参加率の向上、また、将来に向けた健康管理の大切さの意識付けは、豊田市でも参考にできる。 ・検診の機会に本事業のPRを行うなど、良いきっかけづくりをしている。 ・中学生以下の参加者が大半である。世代別に見ると偏りはあるものの、この世代に意識づけをすることは将来的に意義のあることではないか。 		
その他（意見・課題など）	<ul style="list-style-type: none"> ・10年を超える事業であり、マンネリ化を迎える時期でもある。更なる充実を図るための見直しも重要である。この事業を本市で検討する場合、袋井市とは人口規模の違いがあることから、本市では一考をしての取組みが期待される。 ・市民の健康づくりの観点から、スポーツ部門と健康部門との連携体制の構築に留意する必要がある。 ・子どもの参加者、女性の参加者が多くを占める状況であり、壮年層の男性の取り込みが今後の課題となるのではないか。 		